

式 辞

柔らかな日差しに春の訪れを感じる今日の佳き日、ご来賓の皆様、保護者の皆様とともに、第72回卒業証書授与式を挙げていただけますことに、大きな喜びを感じております。

卒業証書を手にした98名の皆さん、卒業おめでとうございます。今日は、これまでの集大成であり、みんなで過ごす大切な時です。万感の思いを込めて、皆さんらしい卒業式を創り上げましょう。

卒業生のみなさんは、まさに学校の顔として様々な場面で活躍しました。コロナウイルス感染拡大により、様々な制約を余儀なくされた中でも、ピンチをチャンスに代え、できることを工夫して、明るく生活するみなさんの姿に、何度も力づけられました。学校行事や委員会活動、中体連、その他多くの活動において、みなさんが記した足跡は、小名浜第二中学校の伝統を築く大きな一歩になったと思います。

卒業生のみなさんで特筆すべきことは、とても素直な生徒たちだということです。何事においても、まず「素直に受け入れる」という姿勢がなければ集団での行動は成立しません。日々の生活において、話を聞く時のまっすぐな目は、きらきらと輝いていました。

2学期半ばからは、希望する進路の実現に向けて、学習に集中するクラスを創り上げてきました。「受験は団体戦」とも言われますが、それぞれが抱えている不安感を感じ取り、温かい雰囲気に変えていくことによって、共に支え合い、乗り越える力としてきました。

もちろん、これまでは、様々なぶつかり合いや行き違いがあったことでしょう。その度ごとに、話し合い、考え、気持ちを整理して、今のクラスをつくってきたはずです。

様々な世界に羽ばたく皆さんに、道標になればと思い、レイフ・クリスチャンセンというスウェーデンの作家の「あなたにできること」という絵本から、「じぶん」というお話の一節を抜粋して紹介します。

考えたことがありますか じぶんにできることを
目は 世界をしっかりと 見ることができる
耳は どんなつぶやきも 聴きとることができる
口は 見たこと聴いたことを 伝えることができる
足は あなたを待つ人の所へ 連れて行ってくれる
手は 困っている人を 助けることができる
肩は 疲れた人を 休ませることができる
頭は 自分にできることを 考えつくことができる
心は 相手の気持ちを 感じとることができる

これから皆さんは、おもしろいこと、うれしいこと、また、辛いことや悔しいことなど、様々な体験をすることでしょう。これからの10年、最も感性が豊かな時に、たくさんの人に出会い、多くの感動を味わってください。そして、「自分はどのように考えるのか、何をするのか」と問い続けてください。みなさんには、できることがたくさんあります。また、あなたにしかできないこともあるはずです。

あの震災から12年が過ぎました。この小名浜でも多くの環境の変化の中で、たくさんの人たちが懸命に復興に向けて取り組んできました。その労苦を希望に変え、これからの世の中を築いてゆくのは、皆さんの力です。その時の最強のアイテムは、明るく元気な笑顔と温かい思いやりであり、世の中をつくり支える創造力です。

今日は、自分を発見する長い旅の第一歩です。元気に踏み出しましょう。この小名浜第二中学校で 仲間や先生方と出会い、語り合い、元気に成長した 皆さんの巣立ちを 心から祝福いたします。

結びに、保護者の皆様 並びに 地域の皆様の 多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、卒業生の未来が 輝かしいものになることを 心から願い、式辞といたします。

いわき市立小名浜第二中学校長 新家 弘久

